

第13期 事業計画

自 2022年4月1日

至 2023年3月31日

一般財団法人 大阪大学産業科学研究協会

1. 活動方針

科学技術による産業の発展・それによる生活の向上に貢献するために、産学間の連携をより一層緊密にし、事業化等も視野に入れた新たな連携方策の展開を図っていく必要があります。本協会は、真の産学連携の実をあげるべく、大阪大学産業科学研究所関連の研究成果のシーズを広く世の中に情報発信し、産業界との橋渡しができるような事業を積極的に展開していきます。先端科学技術知識の産業界への普及事業、新産業の創造に向けた新産業創造支援事業、に加えて、産業界のニーズに基づく新技術の実用化を図るべく、産業界との新たな関係づくりに取り組み、更なる産学連携事業の発展を目指します。

第13期（2022年度）は、2020年度から引き続く新型コロナウイルス感染症の影響により、各種行事のオンライン化だけでなく、前期（2021年度）から途絶えがちになった会員との交流を再構築すべく、新たに開始された会員交流会事業の流れを継承しながら、新しい会員間の交流活性化に努めるものとします。

2. 先端知識普及事業

（1）産研テクノサロン（シーズとニーズのマッチング・交流の会）

位置付け：産研シーズと民間企業のニーズのマッチングの場

対象：会員企業、研究所教員および産業界一般

開催回数：4回／年（第103回～第106回）

産研戦略室・産研テクノサロン運営委員会において企画を行う。

（2）産研ざっくばらんトーク（2016年4月より開始、2019年の第25回をもって休止中）

位置付け：産研の研究内容の紹介と対話を通じての深い理解と応用検討の場（主として教授クラスを対象として企画を立案・展開）

対象：主として会員企業

開催回数：不定期開催／年（対面が可能な場合）

第25回まで旧産研産学連携室（現 戦略室）において企画を行い、実施してきた。産研内において開催ニーズが発生した場合に産研戦略室において企画を行う予定である。2021年度に行った会員交流会での意見交換の結果も加味し、新しい交流会企画へと発展させることも検討する。

（3）学術講演会

位置付け：産研の研究成果・保有技術等の情報提供と議論の場

対象：研究者および広く産業界一般

開催回数：1回／年

(4) 協会ホームページ、メールによる情報提供並びに研究所活動の紹介

・ホームページ URL： <https://www.sanken.osaka-u.ac.jp/RAIS/>

・情報提供については、

①会員企業名公開：新規会員入会・社名変更等に伴い更新(入会時に「社名公開の可否について」問い合わせ済)

<https://www.sanken.osaka-u.ac.jp/RAIS/about/membership.html>

②産学連携情報の公開：

https://www.sanken.osaka-u.ac.jp/RAIS/academic_industrial_alliance/index.html

を主軸としてホームページを通じた情報提供を行う

(5) 2021年度開催を始めた会員交流会：2022年度も1~2回程度開催予定

・リアル開催が可能になった場合はより交流が深まる方策を取る。テクノサロン後の交流会が開催可能になっても独自に開催する予定。

3. 新産業創造促進事業

(1) 新産業創造研究会

①香り・におい・ガスセンサー研究会 (2021年度より事業開始)

「香り・におい情報のデジタル化」および「ガス(嗅覚)センサー開発」について学び新たなビジネスの可能性を探ることを趣旨とした研究会。

担当教員：第3研究部門 生体分子反応科学研究分野 黒田俊一教授

2022年度は、年6回の開催を計画(現時点では全てオンライン研究会を予定)。2023年度の研究会事業開催については、2022年度中に協会と担当教員が協議を行い、決定するものとする。

②セルロースナノファイバー講習会 (2022年5月度をもって事業計画終了)

セルロースナノファイバーを中心とした木質材料科学ならびにセルロース科学に関する基礎的・学術的知見の普及と人材育成を目指す研究会。

担当教員：第2研究部門 自然材料機能化研究分野 能木雅也教授

2020年からの新型コロナ禍の影響を受け、事業計画が休止状態となっていたが、改めてポストコロナにマッチした講習会のあり方を模索するため、計画をしていた事業計画について、2022年5月度をもって終了とすることが能木教授により決定された。

③【2019年度事業終了扱い】核酸を標的とした低分子創薬研究会(DNA研究会)(中谷教授)、バイオナノフォトンクス新産業創造研究会(BNP研究会)(永井教授)

これら2つの研究会事業は、2019年度をもって事業終了という位置づけであったが、2019年度末(2020年1月~3月)に開催する予定であった最終成果を取りまとめる研究会開催が新型コロナ禍の影響により、現在まで開催が困難な状況にある。2022年度は担当教授らと研究会最終事業の進め方について協議を行い、最終的な事業終了のあり方を決定する。

(2) 新産業創造支援

①プリンテッド・エレクトロニクス (PE) 研究会

国内に新たな市場を見据えたプリンテッド・エレクトロニクスに関する統合的な情報交換、情報発信、共同開発提案の場。

担当教員：第1研究部門 先進電子デバイス研究分野 関谷毅教授

開催：数回／年を基本とする。

②WBG実装コンソーシアム(新世代パワー半導体実装技術開発コンソーシアム)

省エネルギー技術の鍵を握る新世代パワー半導体の実装技術、評価方法の確立を目指す会。

担当教員：フレキシブル3D実装協働研究所 菅沼克昭特任教授

開催：数回／年を基本とする。

③フレキシブル3D実装コンソーシアム (F3Dコンソーシアム)

先端パワー半導体やAI/IoTを支える高密度3D半導体などの研究を対象とし、これらの実装における異相界面現象に関わる新技術開発や市場における様々な技術課題の理解と解決を目指すコンソーシアム。複数の技術課題を解決するためのワーキンググループ (WG) から構成される。

組織構成：現在は以下の2つのWGが組織されている。

WG1) 「先端電子デバイス接着技術WG」(先端エレクトロニクス用途における、樹脂/金属接着界面の接着メカニズムの解明と解析技術の開拓により、制御技術開発に結び付ける)

WG2) 「先端半導体WMV対策研究WG」(車載電子部品におけるWeak-MicroVia問題のメカニズム解明と信頼性評価方法の標準化活動を推進する)

担当教員：フレキシブル3D実装協働研究所 菅沼克昭特任教授

開催：数回／年を基本とする。

2021年度に産業科学研究所事務部と協議を行い、本コンソーシアム事業については一定の移行期間を経て、大阪大学フレキシブル3D実装協働研究所傘下のコンソーシアムとすることが決定された。そのため、2022年度から当面の間は移行期間として産研協会が支援業務(会計管理など)などを受託しながら産業科学研究所およびコンソーシアムと協議を行い、大学側へコンソーシアム事業を移管するためのサポートを行う。

④みどり《適塾》(2016年9月より開催、現在は活動休止)

光る植物技術等の『みどり』テクノロジー」を社会に役立てることを目的としその方法等を議論するデザイン思考勉強会。

主催：みどり《適塾》会

担当教員：第3研究部門 生体分子機能科学研究分野 永井健治教授

開催：3回／年を基本(永井教授からの活動再開要請後に開催回数を再検討)

2022年度は、永井教授と進め方について協議を行う。

⑤その他運営について：2021年度に新産業創造支援事業における産研協会の主要な支援業務(会計管理など)について、産業科学研究所事務部と産研協会事務局との間で協議を行い、契約方法の改善を行う予定である。(実施開始済み)

4. 産業科学研究所に対する支援活動

- (1) フレキシブル 3D 実装協働研究所が主体となって採択された外部資金事業が新産業創造支援事業(WBG 実装コンソーシアムおよび F3D コンソーシアム)と連携をする場合、協力・支援を行う。これは、2021 年度「地域産業デジタル化支援事業」(近畿経済産業局)に協力を行った際の事例に倣うものとする。
- (2) 産研が申請を行う JST 「共創の場支援形成」等の外部資金事業獲得への各種協力(企業の紹介や申請支援等)。特に、産研協会活性化にも繋がる産学連携拠点形成に資する事業申請支援に主眼を置く。
- (3) 上記、活動を通じて協会の活性化を図る。

5. 会員の獲得他

(1) 会員(賛助員)数増加に向けての取り組み

- ① 共同研究先への勧誘、参加マッチングイベントにおける勧誘
- ② 産研戦略室との連携：技術相談企業の非会員への勧誘(大学との共同研究とするには時間を要する企業案件の課題解決を協会のネットワークを用いて行う)

(2) 研究所に対する支援活動(継続)

- ① 会員企業による企業リサーチパークの利用の促進
- ② 企業リサーチパーク交流会の支援
- ③ 会員企業と研究所との交流支援(テクノサロン後の交流会、会員交流会など)

(3) PR 活動など

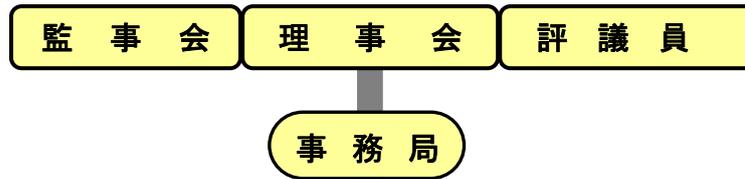
産研戦略室、産研広報室および会員との連携活動により、産研及び協会の PR 活動を推進。

(4) 協会運営体制および産学連携に関する課題対応など(第 12 期第 2 回理事会において役員から定期された諸課題)

- ① 「企画戦略会議」および「アドバイザリーボード」について
現在、一般財団法人大阪大学産業科学研究協会の「組織と事業」に記載されている「企画戦略会議」および「アドバイザリーボード」について、実質的な活動が無いためこれを削除する(第 12 期第 3 回理事会において承認済み)。ただし、今後必要性が生じれば別途設置を検討する。
- ② 役員から提起された「ベンチャーキャピタル(VC)の活用」について
中小企業やスタートアップ支援としての VC 活用については、実績のある産研戦略室との協業が必要である。産研協会としては、産研テクノサロン等の行事案内を関係する VC にも拡張すること、既存の協会関係者が関係を持つ VC との具体的なコンタクトなどを試行することからスタートをする。

以上

一般財団法人 大阪大学産業科学研究協会の組織と事業



- 先端知識普及事業
- 新産業創造促進事業
- 開発研究プロジェクト事業

先端知識普及事業

【産研テクノサロン】
 「産研テクノサロン」は、科学技術研究成果の社会への還元を図るため、大阪大学産業科学研究所と大阪大学産業科学研究協会が共同で定期的開催している会合です。講演会、見学会、親睦交流会を通じて、先端科学技術知識の普及と産学連携による研究開発の促進を図るサロンを目指します。
 《内容》 先端科学技術の紹介・交流
 シーズ・ニーズのマッチング
 《回数》 4回/年

【産研ざっくばらんトーク】
 研究者がざっくばらんに話題を提供し深い理解と交流を目指す会。
 《内容》 話題提供と対話による交流会
 《回数》 不定期開催/年

【学術講演会】
 産業科学研究所の最近の成果を紹介。
 《内容》 ポスターセッション
 一般講演、特別講演
 《回数》 1回/年

新産業創造促進事業

【新産業創造研究会】
 産業科学研究所で行っている特定の研究テーマに関して新産業の創出に向けた最新の情報と深く議論する場を提供します。また、共同研究や技術移転への発展を図り、新産業の創出を目指します。
 《内容》 産研教員の特定研究テーマの実用化検討等
 《回数》 3~4回/年

【新産業創造支援事業】
 大学の科学技術シーズと産業界のニーズのマッチングによる実用化に向けた研究会活動を支援します。大学資産の活用を含む連携支援、運営支援、市場開拓支援などにより実用化、事業化を目指します。また、助成事業への応募支援なども行います。

開発研究プロジェクト事業

【開発研究プロジェクト】
 産業界のニーズに沿ったプロジェクトを設置し、産研の協力のもと、開発研究を実施します。
 実用化に向けたフィージビリティスタディ、事業化のための調査、分析を中心としたテーマを設定し、各プロジェクトに産研協会招聘プロジェクト研究員を設置し開発研究を実施します。

